

# 専徳寺報

第449号

令和元年11月4日発行

浄土真宗本願寺派

専徳寺

〒740-0044 岩国市通津2764  
☎0827-38-1124 FAX38-1000

<http://sentokuji-iwakuni.net/>

専徳寺

検索

専徳寺納骨堂受付中

●法座当番：通津上地区（松崎・山田・本呂尾）  
●参拝セット（念珠・聖典・式章・聴聞カード）  
お持ちください。

本願寺輔教 成 照星 師（太宰府市）

ご講師

日時

11月19日（火） 昼 1時半～3時半  
夜 19時半～21時  
20日（水） 昼 1時半～3時半

## 永代経法要

併修 門徒年回忌総追悼法要

人生の支えとなる仏のみ教え（経）を、子や孫に、永代に伝えていく《永代経法要》。報恩講・降誕会と並ぶ三大法要の一つです。ご都合をつけてどうぞご参詣ください。夜座も温かくしてお待ちしています。



## 秋の展示会

9回目となりました。たくさんのご参加有り難うございます。

【出展者】（丸数字は出展回数）

- ・穴水孝子（書）①、梶本美代子（押し花）②
- ・上岡喜世美（書）①、河本多喜子（手芸・書）④
- ・大田貞子（手芸）①、末広皓子（手芸）②
- ・小方静子（書）①、土井智恵子（プレストフラワー）⑦
- ・小方麻紀子（油絵）⑧、灰谷明夫（写真）①
- ・岡部美代子（水墨画）④、村中恵子（油絵）⑨



【法句】②39 私のがあたまに つのがあった つきあたって 折れて わかった（榎本栄一）

如来・人・言葉 113

## 人生は碁である ―一石の打ち所―

稲田 静真

世はまさに健康ブーム。テレビにも雑誌にも健康食品、健康布団、健康肌着といった類のものがあふれています。健康にいいとか、何かにきくとか、とりあえず「健康」と銘打てばヒット商品になる時代。老いも若きも健康志向は止まるところを知りません。

そういえば最近、わが家の食卓にもよく黒豆の煮物が登場します。なんでも、黒豆が体にとてもいいと、テレビが言ってたそう。私の体を心配してくれるのはありがたいことでもあります。でも、黒豆さえ食べていれば死なずにすむのでしょうか。そんなことはありません。

それぐらいわかってる、という声がどこからか聞こえてきそうですが、黒豆を口にしながら私は今、以前ある書物で読んだ話を思い出しています。それは、ある男が碁を習おうとして本因坊ほんいんぼうの所へ行きまして、

「私は本当の碁打ちになりたいと思うのですが、どうしたら碁が上達するのか教えてください」  
と。すると、本因坊曰く、

「それは何でもないことだ。それは、どうしても先に打たねばならぬ石を、先に打てばよい。下手な碁打ちは、

打たんでもよい所へ打つから負ける」

と言いました。それを聞いていた男は、「ありがとうございます」と言いました。そして翌日から碁を習いに来るかと思ったら、碁を習いには来ないで、すっかり発心はつしんして仏法を聞き始め、篤信とくしんな念仏者になった、というお話。

私は碁のことはよく知らないのですが、この話にはウーンと唸うなるものがありました。このように早くものがわかればたいしたものです。

人生は結局、碁である。その一局の碁盤ごばんに向かって我々は何をやっているかという、みんな下手な碁打ちと同じ様で、打たんでもよい所へ打って結局は皆困っているのである。人生において、どうしても先に解決しなければならぬ問題、それは後生ごしょうの一大事。だと、一瞬のうちに気づいたのでしよう。



生まれたからには必ず死ぬ。そんなことは誰でも知っています。でも、あまり考えたくないのです、私たちは普段なるべく目や耳に蓋ふたをして見ないように聞かないようにしています。「お寺の話は死ぬことばかりでイヤになる」とか「ご院家さん、今日は若婦人の会ですから、死ぬ話はやめておもしろい話をして下さい」と言われたこ

ともあります。私たちは我が身の「死」を直視すること  
を避け、まだまだ先の話だから、と自分自身をごまかし  
ながらなんとなく生きているのではないでしょうか。し  
かし、本当の「生」とは、「死」を踏まえた上での「生」  
を言うのであります。

蓮如上人は『御文章』（白骨章）に、

人間のはかなきことは老少不定のさかひなれば、  
たれの人もはやく後生の一大事を心にかけて、阿弥  
陀仏をふかくたのみまゐらせて、念仏もうすべきなり。  
と、お示しく下さいました。

浄土真宗は阿弥陀さまのご法義です。お聞かせによる  
と、私の行く先には如来さまによって光かがやくお浄土  
が用意されてあるんだよ。命終わる時、如来さまのお力  
ひとつで浄土の仏とならせていただくのだ。如来さまは  
私（凡夫）の側には一切の条件をつけず、死に際の善し  
悪しは問題にしない。だからたとえ、老いさらばえてお  
念仏さえ忘れてしまう時が来ようとも、そんなことは往  
生の障りにはならない。凡夫の仕事は何かという、た  
だ死んでいきさえすればいいのだ、と。

ああ、そうか、よかったなあ。「お浄土があるんだよ、  
いつでもどんな死に様であろうとも、あなたのことは  
この弥陀が引き受けたから安心してまかせておくれ」と  
いう如来さまのおよび声。そのお声をそのまんま「そう  
ですか、ありがとうございます」と聞いていくことが、

お念仏申す生活であり、後生の一大事を心にかけて姿で  
あります。

健康云々も大いに結構。しかし、それだけでは、砂  
の上に建てた楼閣のようなものであります。ひとたび病  
が襲ってきた時には奈落の底に突き落とされるでしょ  
う。何よりも急がねばならぬこと、そのことを私たちは  
碁打ちの男に学ぶべきです。他人事ではありません。一  
人ひとりの「私」のことです。誰に代わってもらっても  
できない、後生の一大事。その解決なしにはこの世に  
生まれてきた意味がありません。

明日ありと 思うこころのあだ桜 夜半に嵐の吹か  
ぬものかは

急げ人 弥陀の御ふねのかよう間に 乗りおくれな  
ばたれか渡さん

私たちも人生の碁盤の上において、一石の打ち所を間  
違えないようにしたいものです。

（『そのまんまでいいんだよ』より）





寺内だより

み仏にいだかれて「葬儀勤修」

9月11日御往生

今津

尾上 幸一様(65)  
喪主 尾上 啓二様

9月15日御往生

通津

土井 順子様(80)  
喪主 土井 宏幸様

9月20日御往生

通津

白田 尚則様(93)  
喪主 白田 直則様

9月26日御往生

保津

村河 弘子様(93)  
喪主 村河 多丸様

9月27日御往生

保津

赤崎 ヨネ様(89)  
喪主 藤谷 美子様

●ご恩を偲びて「法事勤修」(9月9日・10月)

【通津】 増本真一 3、竹田幸司 3、竹田昌史

3、村重健一 13・33、松重勝己 3、村本雅信

3、高林藤江 13、井原貞子 250、中本絹代 25、

兼国幸満 17、米田温胤 3、杉下満男 33、【保津】

秋嶋芳子 13、豊島純一 7、赤崎友彦 1・1、

水上博文 33、【青木】 井藤加代子 3、【市内】

野原明 1、山方修 3、岡崎春江 25、松宮栄昭

100、廣重恵子 1、【県内】 藤本靖子 13、【県外】

佐藤幸子 7、村岡章史 7、桑村久栄 50、山本

俊彦 7・17、池本忠正 1、村重亮 1

●ありがとうございます 「永代経志納」

尊い永代経志を賜りました。謹んで尊  
前にお供え申しあげます。

33回忌のご縁に

金 壹拾萬円也

保津 水上 三千代様

●おめでとうございます

【初参式】

▼9月15日

大田 絢子ちゃん

大田 佳紀様

満喜子様

慈光の中、

お健やかに



●秋讃仏会法要余香

9月25・26日

【講師】 安方哲爾師

【参詣者】 (27日) 昼座91名、夜座24名、

(28日) 昼座62名

【お鉢米】 木村 勲様

法要総代様、新仏婦役員様、通津中地区の  
お世話人様、ありがとうございます。

●ご報告します

山口教区仏教婦人会大会 10月1日

【会場】 海峡メッセ下関

【テーマ】 阿弥陀様のお慈悲に学ぶ

【法話】 福岡義朝氏

【講話】 ただ念仏

【アトラクション】 エクササイズ 山村勇介

【参加者】 村中久子、村河久美子、佐倉裕子

岩国組仏婦50周年大会 10月23日

【会 所】 浄福寺

【講師】 森田義見師

【講話】 お浄土 ーいのちのふるさと

【参加者】 岩中みどり、梶本美代子、河本多  
喜子、塩中幸枝、半田洋美、増本美佐江、三  
井初美、村河久美子、村中久子、坊守

●ご案内します

▼境内清掃作業ー専徳寺倶楽部

門徒男性による境内清掃作業を行います。  
夕方から懇親会もあります。ご参加お待ちし  
ています。

【日時】 12月14日(土)・15時半集合、18時より  
懇親会。

【申し込み】 お寺へご連絡ください

(電話…38-11124)。

▼除夜会

【日時】 12月31日 夜11時半開始

♪深夜12時より、勤行・法話

♪鐘は12時半に終了します

▼元旦会

【日時】 令和2年元旦 朝9時～10時

※「正信偈和讃(現世利益和讃)」、御文章、新  
春法話、お茶